

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 豊洲フォレシア
ルネサス エレクトロニクス株式会社
問合せ窓口 <http://japan.renesas.com/contact/>
E-mail: csc@renesas.com

製品分類	MPU & MCU	発行番号	TN-RZ*-A047A/J	Rev.	第1版
題名	RZ/T1グループユーザーズマニュアル イーサネットMACおよびEtherCATスレーブ・コントローラ に関する注意事項の追加と誤記訂正		情報分類	技術情報	
適用製品	RZ/T1 グループ	対象ロット等	関連資料	RZ/T1 グループユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev1.30 R01UH0483JJ0130 Rev.1.30	
		全ロット			

ユーザーズマニュアルにおいてイーサネット MAC および EtherCAT スレーブ・コントローラに関する誤記や注意事項の不足があることが判明致しました。

本内容をご配慮の上、使用頂けますようお願い致します。

【イーサネット MAC の訂正内容】

項番	頁	現在の記述	訂正後の記述																																	
1	1351	b31 AFILLTEREN の機能説明 1: アドレスフィルタリングを有効にします	b31 AFILLTEREN の機能説明 1: アドレスフィルタリングを有効にします ^注 注 アドレスフィルタリングを有効にした場合でも、MAC アドレスレジスタへの登録の有無に関わらず MAC Control Frame (Pause Packet 等) は常に受信されます。 MAC Control Frame は Destination アドレスが 01-80-C2-00-00-01 のフレームです。																																	
2	1378	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.3 (2) (e) 表 28.6 HWFNC_LongBuffer_Get 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[15:0]</td> <td>Buffer Length</td> <td>必要とするバッファ長。単位バイト。1～2048。</td> </tr> <tr> <td>R4[23:16]</td> <td>予約</td> <td>常に 0</td> </tr> <tr> <td>R4[31:24]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>0xb かつ R0[29] = 1 のとき：成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>[31:27] 00001b [26] 1 [25:18] LLID [17:0] 0</td> </tr> </table>	R4[15:0]	Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1～2048。	R4[23:16]	予約	常に 0	R4[31:24]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:0]	未使用		R0[1:0]	Result	0xb かつ R0[29] = 1 のとき：成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 1 [25:18] LLID [17:0] 0	
R4[15:0]	Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1～2048。																																		
R4[23:16]	予約	常に 0																																		
R4[31:24]	未使用																																			
R5[31:0]	未使用																																			
R6[31:0]	未使用																																			
R7[31:0]	未使用																																			
R0[1:0]	Result	0xb かつ R0[29] = 1 のとき：成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足																																		
R0[28:2]	未使用	All 0																																		
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																		
R0[31:30]	未使用	All 0																																		
R1[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 1 [25:18] LLID [17:0] 0																																		

【訂正後の記述】

28.3.1.3 (2) (e)

表 28.6 HWFNC_LongBuffer_Get

引数レジスタ

R4	[15:0] Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1~2048。
	[23:16]	予約ビットです。常に0を指定してください。
	[31:24]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。

戻り値レジスタ

R0	[1:0] Result	0xb かつ R0[29] = 1 のとき：成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足
	[28:2]	予約ビットです。常に0となります。
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了
	[31:30]	予約ビットです。常に0となります。
R1	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 1 [25:18] LLID [17:0] 0

3	1379	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.3 (2) (e) 表 28.7 HWFNC_ShortBuffer_Get 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[15:0]</td> <td>Buffer Length</td> <td>必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。</td> </tr> <tr> <td>R4[31:16]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [18:0] 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.3 (2) (e) 表 28.7 HWFNC_ShortBuffer_Get 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">R4</td> <td>[15:0] Buffer Length</td> <td>必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。</td> </tr> <tr> <td>[31:16]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[1:0] Result</td> <td>0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足</td> </tr> <tr> <td>[28:2]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0] Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [17:0] 0</td> </tr> </table>	R4[15:0]	Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。	R4[31:16]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:0]	未使用		R0[1:0]	Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [18:0] 0	R4	[15:0] Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。	[31:16]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [17:0] 0
R4[15:0]	Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。																																																								
R4[31:16]	未使用																																																									
R5[31:0]	未使用																																																									
R6[31:0]	未使用																																																									
R7[31:0]	未使用																																																									
R0[1:0]	Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足																																																								
R0[28:2]	未使用	All 0																																																								
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
R0[31:30]	未使用	All 0																																																								
R1[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [18:0] 0																																																								
R4	[15:0] Buffer Length	必要とするバッファ長。単位バイト。1~512。																																																								
	[31:16]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R0	[1:0] Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: バッファ不足																																																								
	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
R1	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	[31:27] 00001b [26] 0 [25:18] SBID [17:0] 0																																																								

4	1380	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.3 (2) (e)</p> <p>表 28.8 HWFNC_Buffer_Release</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[31:0]</td> <td>Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)</td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.3 (2) (e)</p> <p>表 28.8 HWFNC_Buffer_Release</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>[31:0] Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[1:0] Result</td> <td>0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義</td> </tr> <tr> <td>[28:2]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)	R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:0]	未使用		R0[1:0]	Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)																																																			
R5[31:0]	未使用																																																				
R6[31:0]	未使用																																																				
R7[31:0]	未使用																																																				
R0[1:0]	Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義																																																			
R0[28:2]	未使用	All 0																																																			
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
R0[31:30]	未使用	All 0																																																			
R1[31:0]	未使用	All 0																																																			
R4	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)																																																			
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R0	[1:0] Result	0xb: 成功 10b: Invalid System Call 11b: 対象アドレスはバッファ未定義																																																			
	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			

5	1380	<p>【現在の記述】 28.3.1.3 (2) (e) 表 28.9 HWFNC_Buffer_Return 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[31:0]</td> <td>Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値)</td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>解放先頭論理アドレス</td> <td>解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)</td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[2:0]</td> <td>Result</td> <td>00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み</td> </tr> <tr> <td>R0[28:3]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】 28.3.1.3 (2) (e) 表 28.9 HWFNC_Buffer_Return 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>[31:0] Buffer 先頭論理アドレス</td> <td>解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0] 解放先頭論理アドレス</td> <td>解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[2:0] Result</td> <td>00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み</td> </tr> <tr> <td>[28:3]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値)	R5[31:0]	解放先頭論理アドレス	解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)	R6[31:0]	未使用		R7[31:0]	未使用		R0[2:0]	Result	00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み	R0[28:3]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)	R5	[31:0] 解放先頭論理アドレス	解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[2:0] Result	00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み	[28:3]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[31:0]	Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値)																																																			
R5[31:0]	解放先頭論理アドレス	解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)																																																			
R6[31:0]	未使用																																																				
R7[31:0]	未使用																																																				
R0[2:0]	Result	00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み																																																			
R0[28:3]	未使用	All 0																																																			
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
R0[31:30]	未使用	All 0																																																			
R1[31:0]	未使用	All 0																																																			
R4	[31:0] Buffer 先頭論理アドレス	解放するバッファの先頭論理アドレス (HWFNC_LongBuffer_Get または HWFNC_ShortBuffer_Get を実行したときの戻り値 R1)																																																			
R5	[31:0] 解放先頭論理アドレス	解放要求先頭アドレス (このアドレス以降のバッファを解放)																																																			
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R0	[2:0] Result	00xb: 成功 010b: Invalid System Call 011b: R4 で指定したアドレスはバッファ未定義 100b: R5 で指定したアドレスは既にバッファ解放済み																																																			
	[28:3]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			

6	1385	<p>28.3.1.4 (2) (b), 2-1) [バッファ読み出しと解放手順の例] ③ Read された BUFID の[15:0] は、獲得したバッファ先頭アドレスの[26:11] です。 獲得したバッファ先頭アドレスの各ビットは、以下のように構成されます。 [31:27] : 00001b [26:19] : BUFID の[15:8] に相当 (先頭アドレスの[26] は常に 1、[25:19] は LBID[6:0])</p>	<p>28.3.1.4 (2) (b), 2-1) [バッファ読み出しと解放手順の例] ③ Read された BUFID の[15:0] は、獲得したバッファ先頭アドレスの[26:11] です。 獲得したバッファ先頭アドレスの各ビットは、以下のように構成されます。 [31:27] : 00001b [26:19] : BUFID の[15:8] に相当 (先頭アドレスの[26] は常に 1、[25:19] は LLID[6:0])</p>																																																						
7	1386	<p>【現在の記述】 28.3.1.4 (2) (c) 表 28.10 HWFNC_MACDMA_RX_Enable 引数レジスタ</p> <table border="1" data-bbox="325 521 1406 685"> <tr><td>R4[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R5[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R6[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R7[6:0]</td><td>予約</td><td>常に 0</td></tr> <tr><td>R7[31:8]</td><td>未使用</td><td></td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1" data-bbox="325 741 1406 969"> <tr><td>R0[0]</td><td>Result</td><td>0: 成功 1: Invalid System Call^(注1)</td></tr> <tr><td>R0[28:1]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> <tr><td>R0[29]</td><td>Complete</td><td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td></tr> <tr><td>R0[31:30]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> <tr><td>R1[31:0]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> </table> <p>【訂正後の記述】 28.3.1.4 (2) (c) 表 28.10 HWFNC_MACDMA_RX_Enable 引数レジスタ</p> <table border="1" data-bbox="325 1120 1433 1249"> <tr><td>R4</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R5</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R6</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R7</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1" data-bbox="325 1308 1433 1536"> <tr><td rowspan="4">R0</td><td>[0] Result</td><td>0: 成功 1: Invalid System Call^(注1)</td></tr> <tr><td>[28:1]</td><td>予約ビットです。常に 0 となります。</td></tr> <tr><td>[29] Complete</td><td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td></tr> <tr><td>[31:30]</td><td>予約ビットです。常に 0 となります。</td></tr> <tr><td>R1</td><td>[31:0]</td><td>予約ビットです。常に 0 となります。</td></tr> </table>		R4[31:0]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[6:0]	予約	常に 0	R7[31:8]	未使用		R0[0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call ^(注1)	R0[28:1]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call ^(注1)	[28:1]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[31:0]	未使用																																																								
R5[31:0]	未使用																																																								
R6[31:0]	未使用																																																								
R7[6:0]	予約	常に 0																																																							
R7[31:8]	未使用																																																								
R0[0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call ^(注1)																																																							
R0[28:1]	未使用	All 0																																																							
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																							
R0[31:30]	未使用	All 0																																																							
R1[31:0]	未使用	All 0																																																							
R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																							
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																							
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																							
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																							
R0	[0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call ^(注1)																																																							
	[28:1]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																							
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																							
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																							
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																							

8	1387	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c)</p> <p>表 28.11 HWFNC_MACDMA_RX_Disable 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[0]</td> <td>強制リセット</td> <td>0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない</td> </tr> <tr> <td>R4[31:1]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[6:0]</td> <td>予約</td> <td>常に 0</td> </tr> <tr> <td>R7[31:8]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">R0[0]</td> <td>R4[0] = 0 のときの Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている</td> </tr> <tr> <td>R4[0] = 1 のときの Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)</td> </tr> <tr> <td>R0[28:1]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c)</p> <p>表 28.11 HWFNC_MACDMA_RX_Disable 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">R4</td> <td>[0] 強制リセット</td> <td>0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない</td> </tr> <tr> <td>[31:1]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">R0</td> <td rowspan="2">[1:0] Result</td> <td>R4[0] = 0 のとき</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている</td> </tr> <tr> <td>R4[0] = 1 のとき</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[28:2]</td> <td></td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[29] Complete</td> <td></td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[31:30]</td> <td></td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td></td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[0]	強制リセット	0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない	R4[31:1]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[6:0]	予約	常に 0	R7[31:8]	未使用		R0[0]	R4[0] = 0 のときの Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている	R4[0] = 1 のときの Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)	R0[28:1]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[0] 強制リセット	0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない	[31:1]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	R4[0] = 0 のとき	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている	R4[0] = 1 のとき	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)		[28:2]		予約ビットです。常に 0 となります。		[29] Complete		0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了		[31:30]		予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]		予約ビットです。常に 0 となります。
R4[0]	強制リセット	0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない																																																																							
R4[31:1]	未使用																																																																								
R5[31:0]	未使用																																																																								
R6[31:0]	未使用																																																																								
R7[6:0]	予約	常に 0																																																																							
R7[31:8]	未使用																																																																								
R0[0]	R4[0] = 0 のときの Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている																																																																							
	R4[0] = 1 のときの Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)																																																																							
R0[28:1]	未使用	All 0																																																																							
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																																							
R0[31:30]	未使用	All 0																																																																							
R1[31:0]	未使用	All 0																																																																							
R4	[0] 強制リセット	0: 受信中の場合は Disable にしない 1: 受信 DMA が Enable である場合、受信中かどうにかかわらず Disable にする (受信 DMA の強制リセット)。すでに受信 DMA が Disable になっている場合は何もしない																																																																							
	[31:1]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																																							
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																																							
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																																							
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																																							
R0	[1:0] Result	R4[0] = 0 のとき	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中) 10b: 受信中につき Disable できなかった 11b: すでに Disable になっている																																																																						
		R4[0] = 1 のとき	00b: 成功 01b: Invalid System Call (使用中または受信中断中)																																																																						
	[28:2]		予約ビットです。常に 0 となります。																																																																						
	[29] Complete		0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																																						
	[31:30]		予約ビットです。常に 0 となります。																																																																						
R1	[31:0]		予約ビットです。常に 0 となります。																																																																						

9	1388	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c)</p> <p>表 28.12 HWFNC_MACDMA_RX_Control</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[8:0]</td> <td>割り込み要因</td> <td>各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)</td> </tr> <tr> <td>R4[31:9]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[31:8]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[0]</td> <td>Result</td> <td>0: 成功 1: Invalid System Call</td> </tr> <tr> <td>R0[28:1]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c)</p> <p>表 28.12 HWFNC_MACDMA_RX_Control</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">R4</td> <td>[8:0] 割り込み要因</td> <td>各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)</td> </tr> <tr> <td>[31:9]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[0] Result</td> <td>0: 成功 1: Invalid System Call</td> </tr> <tr> <td>[28:1]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[8:0]	割り込み要因	各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)	R4[31:9]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:8]	未使用		R0[0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call	R0[28:1]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[8:0] 割り込み要因	各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)	[31:9]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call	[28:1]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[8:0]	割り込み要因	各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)																																																								
R4[31:9]	未使用																																																									
R5[31:0]	未使用																																																									
R6[31:0]	未使用																																																									
R7[31:8]	未使用																																																									
R0[0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call																																																								
R0[28:1]	未使用	All 0																																																								
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
R0[31:30]	未使用	All 0																																																								
R1[31:0]	未使用	All 0																																																								
R4	[8:0] 割り込み要因	各ビットに対して許可/禁止を制御します。 0: 割り込み禁止 1: 割り込み許可 (初期値)																																																								
	[31:9]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R0	[0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call																																																								
	[28:1]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								

10	1388	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c) 表 28.13 HWFNC_MACDMA_RX_Errstat 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td>R4[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R5[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R6[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R7[31:8]</td><td>未使用</td><td></td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[3:0]</td> <td>Result</td> <td>[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: Rx Data Size over 4096 word (16KB) [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行</td> </tr> <tr> <td>R0[28:4]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.4 (2) (c) 表 28.13 HWFNC_MACDMA_RX_Errstat 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td>R4</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R5</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R6</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R7</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[3:0] Result</td> <td>[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: 受信データが 4096 ワード (16KB) を超えている [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行</td> </tr> <tr> <td>[28:4]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[31:0]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:8]	未使用		R0[3:0]	Result	[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: Rx Data Size over 4096 word (16KB) [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行	R0[28:4]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[3:0] Result	[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: 受信データが 4096 ワード (16KB) を超えている [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行	[28:4]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[31:0]	未使用																																																				
R5[31:0]	未使用																																																				
R6[31:0]	未使用																																																				
R7[31:8]	未使用																																																				
R0[3:0]	Result	[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: Rx Data Size over 4096 word (16KB) [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行																																																			
R0[28:4]	未使用	All 0																																																			
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
R0[31:30]	未使用	All 0																																																			
R1[31:0]	未使用	All 0																																																			
R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R0	[3:0] Result	[0]: Buffer Get 失敗 [1]: 常に 0 [2]: 受信データが 4096 ワード (16KB) を超えている [3]: 強制リセット有効で HWFNC_MACDMA_Rx_Disable を発行																																																			
	[28:4]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																			

11	1391	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.4 (3) (d) 表 28.14 HWFNC_MACDMA_TX_Start 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[31:0]</td> <td>ディスクリプタ Address</td> <td>送信ディスクリプタのアドレス</td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7[6:0]</td> <td>予約</td> <td>常に 0</td> </tr> <tr> <td>R7[31:7]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>0: 成功 1: Invalid System Call</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.4 (3) (d) 表 28.14 HWFNC_MACDMA_TX_Start 引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>[31:0] ディスクリプタ Address</td> <td>送信ディスクリプタのアドレス</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R7</td> <td>[6:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[31:7]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[4:0] Result</td> <td>0: 成功 1: Invalid System Call</td> </tr> <tr> <td>[28:1]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> </table>	R4[31:0]	ディスクリプタ Address	送信ディスクリプタのアドレス	R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[6:0]	予約	常に 0	R7[31:7]	未使用		R0[1:0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0] ディスクリプタ Address	送信ディスクリプタのアドレス	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[6:0]	予約ビットです。常に 0 となります。	[31:7]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[4 :0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call	[28: 1]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。
R4[31:0]	ディスクリプタ Address	送信ディスクリプタのアドレス																																																								
R5[31:0]	未使用																																																									
R6[31:0]	未使用																																																									
R7[6:0]	予約	常に 0																																																								
R7[31:7]	未使用																																																									
R0[1:0]	Result	0: 成功 1: Invalid System Call																																																								
R0[28:2]	未使用	All 0																																																								
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
R0[31:30]	未使用	All 0																																																								
R1[31:0]	未使用	All 0																																																								
R4	[31:0] ディスクリプタ Address	送信ディスクリプタのアドレス																																																								
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R7	[6:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
	[31:7]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																								
R0	[4 :0] Result	0: 成功 1: Invalid System Call																																																								
	[28: 1]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																								
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								
R1	[31:0]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																								

12	1391	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.4 (3) (d)</p> <p>表 28.15 HWFNC_MACDMA_TX_Errstat</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td>R4[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R5[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R6[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> <tr><td>R7[31:0]</td><td>未使用</td><td></td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td>R0[1:0]</td><td>Result</td><td>[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout</td></tr> <tr><td>R0[28:2]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> <tr><td>R0[29]</td><td>Complete</td><td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td></tr> <tr><td>R0[31:30]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> <tr><td>R1[31:0]</td><td>未使用</td><td>All 0</td></tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.4 (3) (d)</p> <p>表 28.15 HWFNC_MACDMA_TX_Errstat</p> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td>R4</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R5</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R6</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> <tr><td>R7</td><td>[31:0]</td><td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td></tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr><td rowspan="4">R0</td><td>[1:0] Result</td><td>[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout</td></tr> <tr><td>[28:2]</td><td>予約ビットです。常に0となります。</td></tr> <tr><td>[29] Complete</td><td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td></tr> <tr><td>[31:30]</td><td>予約ビットです。常に0となります。</td></tr> <tr><td>R1</td><td>[31:0]</td><td>予約ビットです。常に0となります。</td></tr> </table>	R4[31:0]	未使用		R5[31:0]	未使用		R6[31:0]	未使用		R7[31:0]	未使用		R0[1:0]	Result	[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	未使用	All 0	R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout	[28:2]	予約ビットです。常に0となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に0となります。	R1	[31:0]	予約ビットです。常に0となります。
R4[31:0]	未使用																																																				
R5[31:0]	未使用																																																				
R6[31:0]	未使用																																																				
R7[31:0]	未使用																																																				
R0[1:0]	Result	[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout																																																			
R0[28:2]	未使用	All 0																																																			
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
R0[31:30]	未使用	All 0																																																			
R1[31:0]	未使用	All 0																																																			
R4	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R5	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R6	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																			
R0	[1:0] Result	[0]: Memory Access Violation [1]: Memory Access Timeout																																																			
	[28:2]	予約ビットです。常に0となります。																																																			
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																			
	[31:30]	予約ビットです。常に0となります。																																																			
R1	[31:0]	予約ビットです。常に0となります。																																																			

13	1393	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.5 (2) (c)</p> <p>表 28.16 HWFNC_Direct_Memory_Transfer</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td colspan="2">HWFNC_Direct_Memory_Transfer</td> </tr> <tr> <td>機能</td> <td colspan="2">Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。</td> </tr> </table> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[31:0]</td> <td>転送先先頭アドレス</td> <td>転送先アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>転送元先頭アドレス</td> <td>転送元アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>転送バイト数</td> <td>転送バイト数を指定します。</td> </tr> <tr> <td>R7[31:8]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>Exception 発生アドレス</td> <td>Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.5 (2) (c)</p> <p>表 28.16 HWFNC_Direct_Memory_Transfer</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td colspan="2">HWFNC_Direct_Memory_Transfer</td> </tr> <tr> <td>機能</td> <td colspan="2">Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。</td> </tr> </table> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>[31:0] 転送先先頭アドレス</td> <td>転送先アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0] 転送元先頭アドレス</td> <td>転送元アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0] 転送バイト数</td> <td>転送バイト数を指定します。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[1:0] Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生</td> </tr> <tr> <td>[28:2]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に 0 となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0] Exception 発生アドレス</td> <td>Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。</td> </tr> </table>	名称	HWFNC_Direct_Memory_Transfer		機能	Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。		R4[31:0]	転送先先頭アドレス	転送先アドレスを指定します。	R5[31:0]	転送元先頭アドレス	転送元アドレスを指定します。	R6[31:0]	転送バイト数	転送バイト数を指定します。	R7[31:8]	未使用		R0[1:0]	Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。	名称	HWFNC_Direct_Memory_Transfer		機能	Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。 Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。		R4	[31:0] 転送先先頭アドレス	転送先アドレスを指定します。	R5	[31:0] 転送元先頭アドレス	転送元アドレスを指定します。	R6	[31:0] 転送バイト数	転送バイト数を指定します。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。	R1	[31:0] Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。
名称	HWFNC_Direct_Memory_Transfer																																																																
機能	Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。																																																																
R4[31:0]	転送先先頭アドレス	転送先アドレスを指定します。																																																															
R5[31:0]	転送元先頭アドレス	転送元アドレスを指定します。																																																															
R6[31:0]	転送バイト数	転送バイト数を指定します。																																																															
R7[31:8]	未使用																																																																
R0[1:0]	Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生																																																															
R0[28:2]	未使用	All 0																																																															
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																															
R0[31:30]	未使用	All 0																																																															
R1[31:0]	Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。																																																															
名称	HWFNC_Direct_Memory_Transfer																																																																
機能	Data RAM から Buffer RAM に、または Buffer RAM から Data RAM にデータを転送します。 Buffer RAM から Buffer RAM への転送はできません。Buffer RAM から Buffer RAM への転送は、HWFNC_INT_BUF をご使用ください。 (Data RAM 間は可能です)。																																																																
R4	[31:0] 転送先先頭アドレス	転送先アドレスを指定します。																																																															
R5	[31:0] 転送元先頭アドレス	転送元アドレスを指定します。																																																															
R6	[31:0] 転送バイト数	転送バイト数を指定します。																																																															
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																															
R0	[1:0] Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (Buffer RAM 間の転送を指定された) 10b: Exception 発生																																																															
	[28:2]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																															
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																															
	[31:30]	予約ビットです。常に 0 となります。																																																															
R1	[31:0] Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。																																																															

14	1394	<p>【現在の記述】</p> <p>28.3.1.5 (2) (c)</p> <p>表 28.17 HWFNC_Direct_Memory_Replace</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>HWFNC_Direct_Memory_Replace</td> </tr> <tr> <td>機能</td> <td>Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません。</td> </tr> </table> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4[31:0]</td> <td>パターン</td> <td>書き込むデータパターンを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R5[31:0]</td> <td>先頭アドレス</td> <td>書き込み先の先頭アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R6[31:0]</td> <td>ワード数</td> <td>書き込むワード数を指定します。</td> </tr> <tr> <td>R7[31:8]</td> <td>未使用</td> <td></td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R0[1:0]</td> <td>Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生</td> </tr> <tr> <td>R0[28:2]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R0[29]</td> <td>Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>R0[31:30]</td> <td>未使用</td> <td>All 0</td> </tr> <tr> <td>R1[31:0]</td> <td>Exception 発生アドレス</td> <td>Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。</td> </tr> </table> <p>【訂正後の記述】</p> <p>28.3.1.5 (2) (c)</p> <p>表 28.17 HWFNC_Direct_Memory_Replace</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>HWFNC_Direct_Memory_Replace</td> </tr> <tr> <td>機能</td> <td>Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません(1ワードは32ビット)。</td> </tr> </table> <p>引数レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td>R4</td> <td>[31:0] パターン</td> <td>書き込むデータパターンを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>[31:0] 先頭アドレス</td> <td>書き込み先の先頭アドレスを指定します。</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>[31:0] ワード数</td> <td>書き込むワード数を指定します。</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>[31:0]</td> <td>※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。</td> </tr> </table> <p>戻り値レジスタ</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4">R0</td> <td>[1:0] Result</td> <td>00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生</td> </tr> <tr> <td>[28:2]</td> <td>予約ビットです。常に0となります。</td> </tr> <tr> <td>[29] Complete</td> <td>0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了</td> </tr> <tr> <td>[31:30]</td> <td>予約ビットです。常に0となります。</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>[31:0] Exception 発生アドレス</td> <td>Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。</td> </tr> </table>	名称	HWFNC_Direct_Memory_Replace	機能	Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません。	R4[31:0]	パターン	書き込むデータパターンを指定します。	R5[31:0]	先頭アドレス	書き込み先の先頭アドレスを指定します。	R6[31:0]	ワード数	書き込むワード数を指定します。	R7[31:8]	未使用		R0[1:0]	Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生	R0[28:2]	未使用	All 0	R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	R0[31:30]	未使用	All 0	R1[31:0]	Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。	名称	HWFNC_Direct_Memory_Replace	機能	Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません(1ワードは32ビット)。	R4	[31:0] パターン	書き込むデータパターンを指定します。	R5	[31:0] 先頭アドレス	書き込み先の先頭アドレスを指定します。	R6	[31:0] ワード数	書き込むワード数を指定します。	R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。	R0	[1:0] Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生	[28:2]	予約ビットです。常に0となります。	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了	[31:30]	予約ビットです。常に0となります。	R1	[31:0] Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。
名称	HWFNC_Direct_Memory_Replace																																																												
機能	Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません。																																																												
R4[31:0]	パターン	書き込むデータパターンを指定します。																																																											
R5[31:0]	先頭アドレス	書き込み先の先頭アドレスを指定します。																																																											
R6[31:0]	ワード数	書き込むワード数を指定します。																																																											
R7[31:8]	未使用																																																												
R0[1:0]	Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生																																																											
R0[28:2]	未使用	All 0																																																											
R0[29]	Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																											
R0[31:30]	未使用	All 0																																																											
R1[31:0]	Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。																																																											
名称	HWFNC_Direct_Memory_Replace																																																												
機能	Data RAMまたはBuffer RAMの指定されたメモリエリアをあるデータパターンで置き換えます。書き込みワード数は4ワード以上でなければなりません(1ワードは32ビット)。																																																												
R4	[31:0] パターン	書き込むデータパターンを指定します。																																																											
R5	[31:0] 先頭アドレス	書き込み先の先頭アドレスを指定します。																																																											
R6	[31:0] ワード数	書き込むワード数を指定します。																																																											
R7	[31:0]	※本 FunctionCall では使用しません。設定値は無視されます。																																																											
R0	[1:0] Result	00b: 成功 01b: Invalid System Call (設定したアドレスがバイト単位での指定だった。 転送ワード数を3ワード以下で設定した。) 10b: Exception 発生																																																											
	[28:2]	予約ビットです。常に0となります。																																																											
	[29] Complete	0: ハードウェアファンクションコール未了 1: ハードウェアファンクションコール完了																																																											
	[31:30]	予約ビットです。常に0となります。																																																											
R1	[31:0] Exception 発生アドレス	Exception 発生時、発生アドレス。その他の場合は all 0。																																																											

15	1395	<p>28.3.2 表 28.18 送信動作に関する割り込み TX FIFO エラー割り込みの発生条件/クリア条件</p> <p>GMAC_TXID/GMAC_TXRESULT レジスタが最大個数 (4 個) の情報を保持した状態で、さらに情報の更新が起きた場合に発生します。このエラーが発生した時点で、保持されていた情報の中で一番古いものが上書きされていますので、ご注意ください。 GMAC_TXID/GMAC_TXRESULT レジスタを読み出すことで、保持されていた情報がクリアされ、通常動作に戻ることができます。</p>	<p>28.3.2 表 28.18 送信動作に関する割り込み TX FIFO エラー割り込みの発生条件/クリア条件</p> <p>GMAC_TXID/GMAC_TXRESULT レジスタが最大個数 (4 個) の情報を保持した状態で、さらに情報の更新が起きた場合に発生します。このエラーが発生した時点で、保持されていた情報の中で一番古いものが上書きされていますので、ご注意ください。 GMAC_TXFIFO.TRBFR ビットの値が 0 になるまで GMAC_TXID/GMAC_TXRESULT レジスタを繰り返し読み出すことで、保持されていた情報がクリアされ、通常動作に戻ることができます。</p>																				
16	1399	<p>28.3.3.2 (1)送信フレーム制御情報</p> <table border="1" data-bbox="325 528 874 909"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TX_WORD[12:0]</td> <td>送信する Ethernet フレームのワード数を指定します。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。</td> </tr> <tr> <td>TCPIP ACC OFF</td> <td>1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効</td> </tr> <tr> <td>APAD</td> <td>フレーム長が 64 オクテットに満たないのでパディングを行います。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	説明	TX_WORD[12:0]	送信する Ethernet フレームのワード数を指定します。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。	TCPIP ACC OFF	1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効	APAD	フレーム長が 64 オクテットに満たないのでパディングを行います。	<p>28.3.3.2 (1)送信フレーム制御情報</p> <table border="1" data-bbox="900 528 1453 943"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TX_WORD[12:0]</td> <td>送信する Ethernet フレームのワード数を指定します (1ワードは 32 ビット)。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。</td> </tr> <tr> <td>TCPIP ACC OFF ^{注2}</td> <td>1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効</td> </tr> <tr> <td>APAD</td> <td>フレーム長が 64 オクテットに満たない場合に自動でパディングを行います。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 2. 以下のフレームを送信する場合は、TCPIP アクセラレータを無効にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • UDP あるいは TCP パケットを含まない IPv6 フレーム • IEEE802.3 + IEEE802.2 (LLC) フレーム 	項目	説明	TX_WORD[12:0]	送信する Ethernet フレームのワード数を指定します (1ワードは 32 ビット)。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。	TCPIP ACC OFF ^{注2}	1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効	APAD	フレーム長が 64 オクテットに満たない場合に自動でパディングを行います。				
項目	説明																						
TX_WORD[12:0]	送信する Ethernet フレームのワード数を指定します。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。																						
TCPIP ACC OFF	1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効																						
APAD	フレーム長が 64 オクテットに満たないのでパディングを行います。																						
項目	説明																						
TX_WORD[12:0]	送信する Ethernet フレームのワード数を指定します (1ワードは 32 ビット)。最終ワード内で有効なバイト数は、TX_EOB[1:0]で指定します。																						
TCPIP ACC OFF ^{注2}	1 : TCPIP アクセラレータを無効 0 : TCPIP アクセラレータを有効																						
APAD	フレーム長が 64 オクテットに満たない場合に自動でパディングを行います。																						
17	1400	<p>28.3.3.2 (2) (a) 図 28.16 送信データフォーマット (TCPIPACC 有効、VLAN Tag あり)</p> <table border="1" data-bbox="325 1184 874 1417"> <tr> <td colspan="2">Destination MAC address(6bytes)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Source MAC address(6bytes)</td> </tr> <tr> <td>Padding(2bytes)</td> <td>VLAN tag(2bytes)</td> </tr> <tr> <td>Type/Length(2bytes)</td> <td>VLAN tag(2bytes)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Frame payload(Max. 1500bytes)</td> </tr> </table>	Destination MAC address(6bytes)		Source MAC address(6bytes)		Padding(2bytes)	VLAN tag(2bytes)	Type/Length(2bytes)	VLAN tag(2bytes)	Frame payload(Max. 1500bytes)		<p>28.3.3.2 (2) (a) 図 28.16 送信データフォーマット (TCPIPACC 有効、VLAN Tag あり)</p> <table border="1" data-bbox="900 1184 1453 1417"> <tr> <td colspan="2">Destination MAC address(6bytes)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Source MAC address(6bytes)</td> </tr> <tr> <td>Padding(2bytes)</td> <td>VLAN tag(2bytes)</td> </tr> <tr> <td>Type/Length(2bytes)</td> <td>VLAN Info(2bytes)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">Frame payload(Max. 1500bytes)</td> </tr> </table>	Destination MAC address(6bytes)		Source MAC address(6bytes)		Padding(2bytes)	VLAN tag(2bytes)	Type/Length(2bytes)	VLAN Info(2bytes)	Frame payload(Max. 1500bytes)	
Destination MAC address(6bytes)																							
Source MAC address(6bytes)																							
Padding(2bytes)	VLAN tag(2bytes)																						
Type/Length(2bytes)	VLAN tag(2bytes)																						
Frame payload(Max. 1500bytes)																							
Destination MAC address(6bytes)																							
Source MAC address(6bytes)																							
Padding(2bytes)	VLAN tag(2bytes)																						
Type/Length(2bytes)	VLAN Info(2bytes)																						
Frame payload(Max. 1500bytes)																							
18	1402	<p>28.3.3.3 送信処理用ディスクリプタの作成 なお、この機能は以下の制約事項、制限事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Linked Long Buffer を Release Bit = 1 でディスクリプタに指定した場合 • Descriptor で指定したアドレスを含む Buffer だけが解放されます • Link された Buffer を追いかけて解放することはありません 	<p>28.3.3.3 送信処理用ディスクリプタの作成 なお、この機能は以下の制約事項、制限事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Linked Long Buffer を Release Bit = 1 でディスクリプタに指定した場合 • Descriptor で指定したアドレスを含む Buffer だけが解放されます • Link された Buffer を追いかけて解放することはありません 																				
19	1406	<p>28.3.4.6 受信データフォーマット イーサネット MAC でフレームを受信する場合、フレームデータの後ろに 64bit の受信フレーム情報が付加されます。この受信フレーム情報から、イーサネットフレームのサイズや、エラー等のステータスを知ることができます。 受信フレーム情報は 64 bit 境界から始まるため、イーサネットフレームの最後の Padding サイズは、フレームサイズに応じて変化します。</p>	<p>28.3.4.6 受信データフォーマット イーサネット MAC でフレームを受信する場合、フレームデータの後ろに 64bit の受信フレーム情報が付加されます。この受信フレーム情報から、イーサネットフレームのサイズや、エラー等のステータスを知ることができます。 受信フレーム情報は 64 bit 境界から始まるため、イーサネットフレームの次の Padding サイズは、フレームサイズに応じて変化します。</p>																				

20	1407, 1408	28.3.4.6 (1)受信フレーム情報	28.3.4.6 (1) 受信フレーム情報																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IPNG</td> <td>“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。</td> </tr> <tr> <td>TCPNG</td> <td>“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。</td> </tr> <tr> <td>IPV6NG</td> <td>“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します</td> </tr> <tr> <td>OUT_OF_LIST</td> <td>“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ</td> </tr> <tr> <td>TYPEIP</td> <td>“1”のとき、IP パケットであることを示します。</td> </tr> <tr> <td>MAACL</td> <td>“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。</td> </tr> <tr> <td>PPPOE</td> <td>“1”のとき PPPoE のパケットを示します。</td> </tr> <tr> <td>VTAG</td> <td>“1”のとき VLAN Tag を含むパケットを示します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	説明	IPNG	“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。	TCPNG	“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。	IPV6NG	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します	OUT_OF_LIST	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ	TYPEIP	“1”のとき、IP パケットであることを示します。	MAACL	“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。	PPPOE	“1”のとき PPPoE のパケットを示します。	VTAG	“1”のとき VLAN Tag を含むパケットを示します。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IPNG ^注</td> <td>“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。</td> </tr> <tr> <td>TCPNG ^注</td> <td>“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。</td> </tr> <tr> <td>IPV6NG ^注</td> <td>“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します</td> </tr> <tr> <td>OUT_OF_LIST ^注</td> <td>“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ</td> </tr> <tr> <td>TYPEIP ^注</td> <td>“1”のとき、IP パケットであることを示します。</td> </tr> <tr> <td>MAACL ^注</td> <td>“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。</td> </tr> <tr> <td>PPPOE ^注</td> <td>“1”のとき PPPoE のパケットを示します。</td> </tr> <tr> <td>VTAG ^注</td> <td>“1”のとき VLAN Tag を含むパケットを示します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 TCPIP アクセラレータを無効にしている場合、これらのフィールドの値は無効です。</p>	項目	説明	IPNG ^注	“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。	TCPNG ^注	“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。	IPV6NG ^注	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します	OUT_OF_LIST ^注	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ	TYPEIP ^注	“1”のとき、IP パケットであることを示します。	MAACL ^注	“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。	PPPOE ^注	“1”のとき PPPoE のパケットを示します。
項目	説明																																				
IPNG	“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。																																				
TCPNG	“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。																																				
IPV6NG	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します																																				
OUT_OF_LIST	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ																																				
TYPEIP	“1”のとき、IP パケットであることを示します。																																				
MAACL	“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。																																				
PPPOE	“1”のとき PPPoE のパケットを示します。																																				
VTAG	“1”のとき VLAN Tag を含むパケットを示します。																																				
項目	説明																																				
IPNG ^注	“1”のとき、IPv4 ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。																																				
TCPNG ^注	“1”のとき、TCP または UDP ヘッダのチェックサムが TCPIP アクセラレータの計算結果と合わないことを示します。																																				
IPV6NG ^注	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダが、ルーティング、Hop-by-Hop、Destination Opt のいずれかであり、かつ、ヘッダ長フィールドの値が不正であることを示します																																				
OUT_OF_LIST ^注	“1”のとき IPv6 の拡張ヘッダで下記リスト外のプロトコル番号を検出したことを示します。 06h : TCP ヘッダ 11h : UDP ヘッダ 00h : Hop-by-Hop 3Ch : Destination Opt 2Ch : フラグメント 2Bh : ルーティング 3Bh : ノーネクストヘッダ 32h : ESP ヘッダ 33h : AH ヘッダ																																				
TYPEIP ^注	“1”のとき、IP パケットであることを示します。																																				
MAACL ^注	“1”のとき 802.3 (LLC/SNAP) のパケットを示します。																																				
PPPOE ^注	“1”のとき PPPoE のパケットを示します。																																				
VTAG ^注	“1”のとき VLAN Tag を含むパケットを示します。																																				
21	1413	28.3.5.1 TCPIP アクセラレータを使った送信 注. 送信パケットの UDP チェックサム計算結果が 0000h の場合には、チェックサムフィールドに FFFFh を書き込みます。	28.3.5.1 TCPIP アクセラレータを使った送信 注 1. 送信パケットの UDP チェックサム計算結果が 0000h の場合には、チェックサムフィールドに FFFFh を書き込みます。 注 2. IPv4 ヘッダのヘッダ長フィールド値が実際のヘッダの長さとは一致していない場合、送信が完了せず正常動作に復帰できない可能性があります。必ず適切な値を設定してください。																																		
22	1414	28.3.5.2 TCPIP アクセラレータを使った受信 TCPIPACC 有効時、受信フレームの MAC ヘッダ部に TCPIPACC 用の 2 byte の Padding が挿入されます。 受信 TCPIP アクセラレータ機能が有効で、受信パケットに TCP/UDP を含む場合には、FCS フィールドが TCP/UDP のチェックサム値で上書きされます。このチェックサム値は、フラグメント化された TCP/UDP パケットの合計チェックサム値の計算に利用できます。	28.3.5.2 TCPIP アクセラレータを使った受信 TCPIPACC 有効時、受信フレームの MAC ヘッダ部に TCPIPACC 用の 2 byte の Padding が挿入されます。 受信 TCPIP アクセラレータ機能が有効で、受信パケットに TCP/UDP を含む場合には、FCS フィールドが TCP/UDP のチェックサム値で上書きされます。このチェックサム値は、フラグメント化された TCP/UDP パケットの合計チェックサム値の計算に利用できます。ただし、フラグメントデータの場合には疑似ヘッダのチェックサム値が含まれていないため、疑似ヘッダのチェックサム値はソフトウェアで計算が必要です。																																		

23	1414	<p>28.3.5.2 TCPIP アクセラレータを使った受信 注 受信パケットの UDP ヘッダのチェックサムフィールドが 0000h の場合には、チェックサムの比較は行いません。</p>	<p>28.3.5.2 TCPIP アクセラレータを使った受信 注 受信パケットの UDP ヘッダのチェックサムフィールドが 0000h の場合には、チェックサムの比較は行いません。TCPNG は 0 になります。</p>
24	1417	<p>【現在の記述】 説明の記載なし</p> <p>【訂正後の記述】 以下の説明を追加します。</p> <p>28.4.4 受信時のチェックサム計算結果の誤判定</p> <p>(1) 対象：Ethernet II フレームおよび IEEE802.3 + IEEE802.2 (LLC+SNAP) フレーム</p> <p>以下の条件のフレームを受信した場合、正常なパケットにもかかわらず受信フレーム情報の IPNG あるいは TCPNG フィールドが 1 になる場合があります。この条件に該当する場合は、ソフトウェアでチェックサム値を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IPv4、TCP ヘッダ内のチェックサムフィールド値が 0x0000 または 0xFFFF ● IPv6、FCS を除いたフレーム長が 60 バイト以上、TCP または UDP のペイロードが 1 バイトでその後ろのデータが 0 以外 ● IPv6、TCP または UDP のチェックサム計算に用いる疑似ヘッダのチェックサム計算値が 21 ビット以上 <p>(2) 対象：IEEE802.3 + IEEE802.2 (LLC) フレーム</p> <p>SNAP を持たない IEEE802.3 + IEEE802.2 (LLC) フレームを受信した場合、TYPEIP フィールドおよび IPNG フィールドが 1 になる場合があります。この条件に該当する場合は、ソフトウェアで SNAP の有無を確認して、SNAP 無しの場合は正常フレームとして扱ってください。</p>	

【EtherCAT スレーブ・コントローラの訂正内容】

項番	頁	現在の記述	訂正後の記述
1	1549	<p>30.8.1 AL コントロール・レジスタ (AL_CONTROL) のビット 5</p> <p>リセット後の値：x シンボル：－ ビット名：予約ビット 機能：読み出した場合は不定値が読めます。 PDI：R (Clear) ECAT：R/(W)</p>	<p>30.8.1 AL コントロール・レジスタ (AL_CONTROL) のビット 5</p> <p>リセット後の値：0 シンボル：DEVICEID ビット名：デバイス ID 要求ビット 機能：デバイス ID 要求 0：要求無し 1：要求あり PDI：R (Clear) ECAT：R/(W)</p>
2	1550	<p>30.8.2 AL ステータス・レジスタ (AL_STATUS) のビット 5</p> <p>リセット後の値：x シンボル：－ ビット名：予約ビット 機能：読み出した場合は不定値が読めます。</p>	<p>30.8.2 AL ステータス・レジスタ (AL_STATUS) のビット 5</p> <p>リセット後の値：0 シンボル：DEVICEID ビット名：デバイス ID ロード状態表示ビット 機能：デバイス ID のロード状態 0：デバイス ID のロード失敗 1：デバイス ID のロード完了</p>
3	1555	<p>30.9.3 PDI コンフィギュレーション・レジスタ (PDI_CONFIG) の b7-b5</p> <p>リセット後の値：010 シンボル：ONCHIPBUS 機能：オンチップ・バスの種類を示します。本 LSI では常に 100 を示します。</p>	<p>30.9.3 PDI コンフィギュレーション・レジスタ (PDI_CONFIG) の b7-b5</p> <p>リセット後の値：010 シンボル：ONCHIPBUS 機能：オンチップ・バスの種類を示します。本 LSI では常に 010 を示します。</p>
4	1574	<p>30.14.7 PHY ポート・ステータス・レジスタ n (PHY_STATUSn)</p>	<p>30.14.7 PHY ポート・ステータス・レジスタ n (PHY_STATUSn)</p>
5	1611	<p>【現在の記述】説明の記載なし</p>	<p>【訂正後の記述】以下の説明を追加します。</p> <p>30.20 リセット回路の構成</p> <p>ESC のリセット回路の構成を図 30.2 に示します。ECAT によるリセット要求 (0040h) あるいは PDI によるリセット要求 (0041h) を受けると、ESC は停止し、ESC からのリセット出力が 1 になります。ESC からのリセット出力により PHYRESETOUT# 端子がローレベルになり、外部に接続した Ethernet PHY がリセットされます。同時に ETHCRSTI 割り込みが発生します。</p> <p>ESC のリセットを解除するためには、ETHCRSTI 割り込み検出後に、ETHSFTRST レジスタの CATRST ビットを 1 → 0 → 1 に切り替える必要があります。なお、ESC のリセット入力が 1 → 0 になるタイミングで ESC のリセット出力が 0 になります。ESC のリセット入力が 0 → 1 になるタイミングで ESC が再起動を始め、EEPROM のロードが開始されます。EEPROM のロードは約 1 ms で完了します。Ethernet PHY の再起動は必ず ESC の起動が完了した後になるように Ethernet PHY のリセット解除のタイミングを設定してください。タイミングチャートを図 30.3 に示します。</p> <p>また、ECAT/PDI によるリセット要求 (0040h / 0041h) でなく、ETHSFTRST レジスタの CATRST ビットにて ESC をリセットすることも可能です。この場合、自動的に PHYRESETOUT# 端子はローレベルにならないため、予め ETHSFTRST レジスタの PHYRST ビットで Ethernet PHY をリセット状態にしておいてください。タイミングチャートを図 30.4 に示します。</p>

5

1611

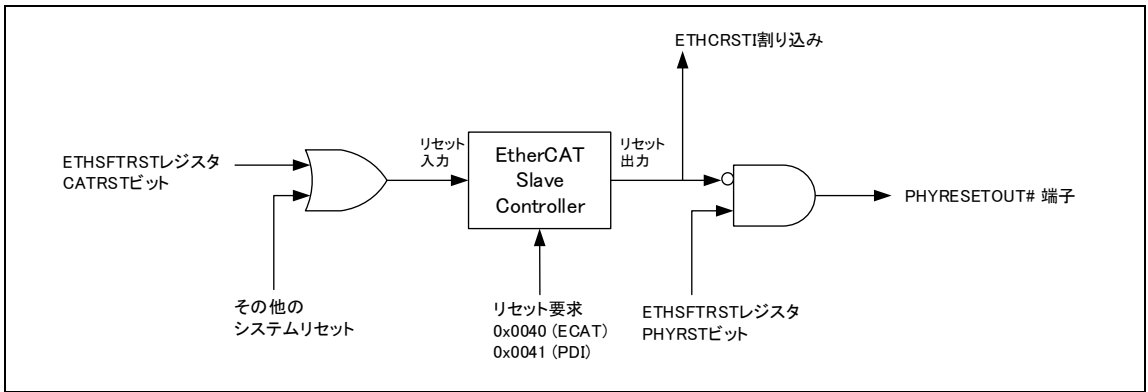


図 30.2 EtherCAT スレーブ・コントローラのリセット回路の構成

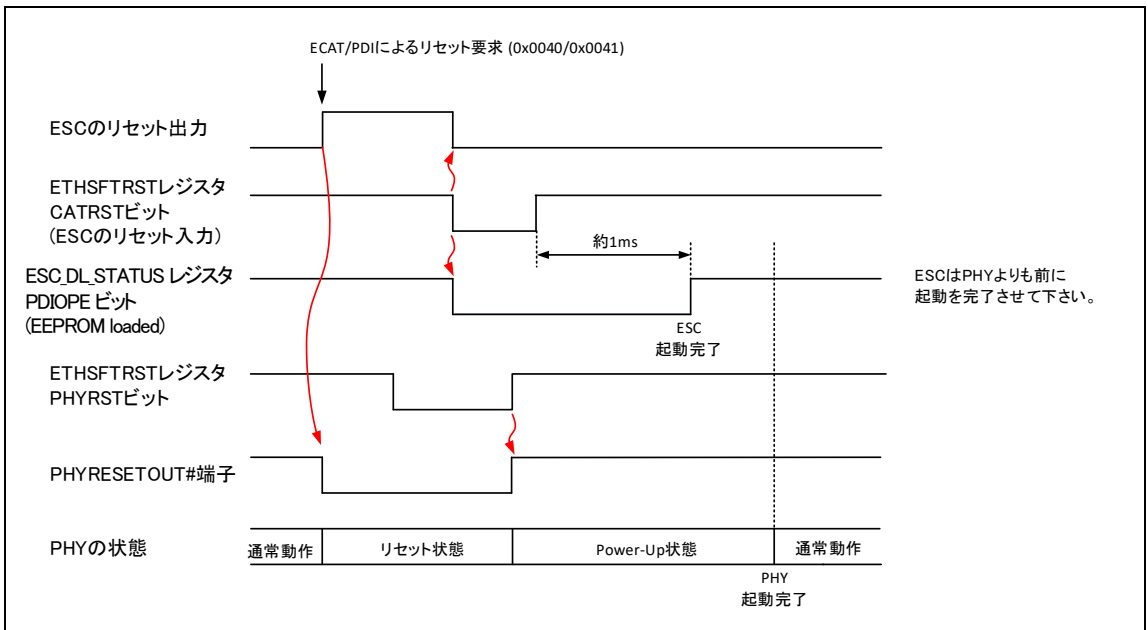


図 30.3 EtherCAT スレーブ・コントローラのリセットタイミング (ECAT/PDI によるリセット要求時)

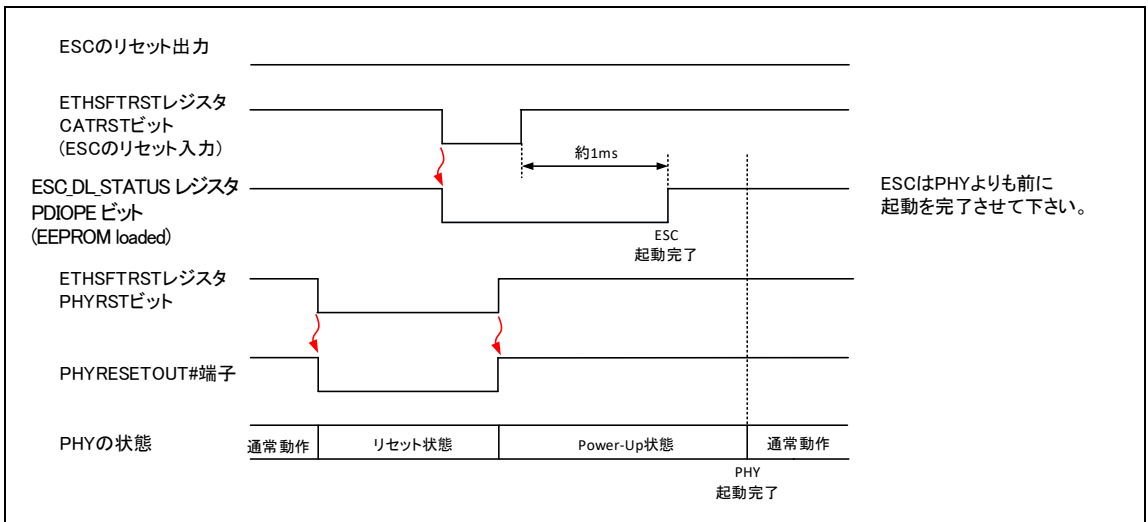


図 30.4 EtherCAT スレーブ・コントローラのリセットタイミング (ETHSFTRST レジスタの CATRST ビットでのリセット時)

以上